

# 目次

提言の要旨	1 ページ
はじめに	2 ページ
第 1 章 現状と問題点	3 ページ
1. 国における要援護者支援についての動き	
2. 市町村における要援護者に対する支援策の現状	
3. 過去の災害における外国人の被災状況等	
4. 外国人旅行者の推移	
第 2 章 課題研究	6 ページ
1. 外国人が災害や事故に関して感じていること	
2. 外国人旅行者の支援のあり方	
第 3 章 政策提言	10 ページ
1. 情報インフラの整備	
2. 災害時外国人旅行者支援マニュアルの作成	
3. 国際交流協会や外国人居住者等との連携・協定	
4. 事業者との連携・協定	
5. 地域の日本人と外国人が参加する防災訓練	
おわりに	13 ページ

## 《提言の要旨》

### 《現状の分析》

- ・市町村における災害時要援護者に対する支援策の現状
  - ⇒高齢者や障がい者等については、災害時要援護者支援制度による具体的な支援策が進んでいる。
  - ⇒災害時要援護者は、日本語が不自由な外国人も含むが、市町村における取り組みがあまり進んでいない。
- ・過去の災害における外国人の被災状況
  - ⇒阪神・淡路大震災では、外国人の死亡率が日本人の例と比較して高かった。
  - ⇒地震を初めて経験し、パニックになった。
  - ⇒言葉が通じないため、いろいろな情報が伝わらなかった。
- ・外国人旅行者の推移
  - ⇒平成25年の訪日外国人旅行者数が過去最高の1,036万4千人を記録。
  - ⇒10年間の推移をみると、今後も増加傾向にある。

災害時において日本人と外国人との対応差があってはならない。今後も外国人旅行者が増加傾向にあることを鑑みると、ますますその重要性が増してくる。



### 《研究課題》

- ・アンケート調査の結果からわかった、外国人が災害や事故に関して感じていること
  - ⇒言葉が通じない、日本語が読めない、土地勘がない、災害に対する知識がない
- ・外国人旅行者の支援のあり方
  - ⇒市町村のほか、地域には、外国人居住者を含む地域住民、国際交流協会などの民間団体、外国人旅行者が立ち寄る宿泊施設や土産店などの事業者等、外国人旅行者を支援するために必要な資源が数多く存在する。各種の具体的支援策とこれらの資源を体系的に結び付けて整理することにより、災害時の外国人旅行者支援策の実効性確保を目指す必要がある。



### 《政策提言》

それぞれの役割を踏まえた市町村、民間団体、事業者、地域住民との連携による外国人旅行者の支援システムを確立